

会議録署名議員には、4番、吉川慶一議員、14番、大滝豊議員を指名いたします。

日程第2. 一般質問

○議長（五十嵐健一郎君）

日程第2、一般質問を行います。

7日に引き続き、通告順に発言を許します。

田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。〔15番 田中立一君登壇〕

○15番（田中立一君）

おはようございます。市民ネット21、田中でございます。

発言通告に基づいて一般質問をさせていただきます。

1、農地の渇水対策について。

ことしの夏は記録的な猛暑と渇水で、降雨に頼る天水田を中心に、稲作や園芸作物など農地に大きな被害を与えた。平成6年以来の干ばつと言われるが、市内各地見てみると、被害の深刻な地域は、能生の上南地域、磯部地域の中山間地域に集中しているように見受ける。本議会初日の市長行政報告では、糸魚川市における7月の月平均気温は、糸魚川市で27.5度、能生で26.2度と40年間で一番高く、また、7月の降水量は糸魚川で平年の38%、能生で平年の28%だったという。

ちなみに平成6年の交通量をネットで調べてみたところ、7月の新潟県の降水量は平年の35%、8月は49%であるので、まさしくこの年に匹敵する干ばつであったと言える。

市では農地渇水警戒本部を8月1日に立ち上げ、相談窓口を設置、緊急に消雪用井戸の開放やかんがい設備に対し補助などを行ったが、最も稲が水を必要とする時期の渇水は、農家にとって影響が大きく深刻である。

被害に対する補償の相談や用水・ため池及び農地のメンテナンスなど、現状と今後の対応について市の考えを伺う。

(1) 渇水による農作物の被害状況とその補償等に対する対応について。

(2) 渇水による田畑のひび割れ等の被害状況と対応について。

(3) ため池等の定期的な補修整備や管理など、今後のメンテナンスについて。

2、第34回国民文化祭、第19回全国障害者芸術・文化祭について。

2019年9月15日から11月30日までの77日間の予定で、国内最大の「文化の祭典」と言われる国民文化祭が、全国障害者芸術・文化祭とあわせて、初めて新潟県で開催される。

県のホームページを見ると国民文化祭は、国民一般の各種の文化活動を全国的な規模で発表する場を提供すること等により、文化活動への参加の意欲を喚起し、新しい芸能・文化の創造を促し、あわせて地方文化の発展に寄与するとともに国民生活のより一層の充実をすることを目的とした国内最大の文化の祭典で、1986年の第1回東京大会から毎年、国内各地で開催され、新潟県は第

34回目となる。

また、障害者芸術・文化祭は、2017年度の奈良県から国民文化祭と一体開催となり、新潟県は、第11回目と第19回目となるとあります。

県では実行委員会を設立し、「文化ふつつ新潟！」をキャッチフレーズに、翌年の東京オリンピック・パラリンピックを控え、その文化プログラムの一環として「県内の文化活動の活性化、裾野の拡大、レベル向上を目指すとともに、地域文化の魅力を国内外に発信していく」、さらに「交流人口の拡大、インバウンド拡充につなげることで、全県の経済効果に波及していく」ことを目指している。

「文化のT字路～西と東の出会う新潟」というテーマは、糸魚川ユネスコ世界ジオパークに合致するところであると思うが、開催まであと1年となり、実行委員に加わっている糸魚川市では、この機会をどう捉え参画していくのか、積極的な構想を期待するところだが考えを伺う。

(1) 分野別フェスティバルの各事業内容と市の参画について。

- ① コア事業、文化団体連携事業、市町村独自事業の取り組み。
- ② 障害者芸術・文化事業の市の取り組みについて伺う。

(2) 市民への周知や盛り上がりをどう図り、観光面での連携をどう考えていくかを伺う。

以上、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

田中議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、特に水稻に被害が出ているものと受けとめております。減収などの損害に対し、農業共済制度の補償に向けた調査が行われる予定となっております。

2点目につきましては、現地調査の中では、徳合地区、中野口地区で多くのひび割れを確認いたしており、これらに対応する補助制度の創設について県に要望いたしております。

3番目につきましては、国・県の補助制度による補修やメンテナンスに取り組みたいと思っております。

2番目のご質問につきましては、この後、教育長のほうから答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

○教育長（田原秀夫君）

おはようございます。

田中議員の2番目の質問にお答えいたします。

1 点目の 1 つ目につきましては、上越 3 市で進める事業として発酵文化の礎を築いた先人たちというテーマが設定されておりますので、当市では、日本酒や魚しょうなどに関係する団体等と今後、連携協議してまいります。市の独自事業につきましては、相馬御風顕彰ふるさと俳句大会を例年より拡充して実施する予定であります。

2 つ目につきましては、福祉施設等と連携した取り組みや各事業に障害者の皆さんが参加しやすい環境を整えていくよう準備を進めてまいります。

2 点目につきましては、文化協会等と協力しながら事業の P R を積極的に展開するとともに、多方面への経済的な波及効果が期待できることから、観光協会等と誘客宣伝や受け入れ体制などの連携を進めてまいります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15 番（田中立一君）

渇水について。

まず、渇水警戒本部についてでありますけれども、今回の猛暑、渇水による農地の被害、これは上越・糸魚川に集中しているようであります。糸魚川市は、県や他の自治体よりも、いち早く警戒本部を立ち上げました。平成 6 年の干ばつを教訓にして、すぐにそれをメニューに整えて、さらに厚く手当てしてくれた部分もあります。また、市や関係者の現地視察もされたようで、市内各地を回ってみたら、市の職員が来て、見ていったとか、そういう声をよく聞きましたし、おかげでぎりだったけれども間に合ったという人も多く、非常に評価をしているところであります。

その一方で、例えば大洞地区などでは、みんなで協力して水の半分を順番にして回し、いわゆる番水をして、辛うじてもった。そういうところもあったりして、各被害地を回り、聞いたり見たりした、その実態を紹介しながら改めて再質問をさせていただきます。

まず、能生地域で渇水の被害が大きいのは、降水量が低かったということと、それに加えて用水や圃場の整備、そういったものがおこなわれている、そういった違いがあったのではないか。ため池頼りのところに被害が出たのではないか。今回の渇水について原因をどう捉えているか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

おはようございます。

今ほどありましたように地形条件によって用水路、またはため池が整備をされております。一般的にため池が整備されておるといところは、水の条件が悪いところが一般的に多いものですから、今回の渇水については、多くの影響が出たものというふうに認識をしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

それで、今いろんな要望が本部のほうに届けられたんじゃないかと思いますがけれども、新たな用水の確保・整備に対する要望というものは、あったものでしょうか。また、あったとしたら、それに対してどのような対応をされたのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

新たな用水の整備という、今のところはまだそういう要望というのは、出てきておりません。ただ、今後、今回の渇水等を踏まえて、新たな水の確保についての相談というのがあるのかもしれませんが、そういう相談があった場合には、丁寧に対応させていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

それから、警戒本部の立ち上げなんですけれども、いち早く、県よりも早く立ち上げてくれたんですけれども、できればもっと早く、1週間、10日ばかり早ければ、もっと助かったのという声をよく聞いたんですが、この警戒本部を立ち上げる基準というものはあるものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

警戒本部の立ち上げに明確な基準というのは、定めておりません。今回については、降雨量が少なく高温が続いたことから、市としては、7月中旬ごろから警戒をしておりました。また、気象状況も把握しながら、また実際の現場も確認しながら心配しておりましたが、7月の下旬に台風が本州を縦断するという情報もありましたけれども、それが西日本のほうへコースを変えてしまったというようなことから、当分まとまった雨の見通しが無いという時点を捉えて、またそこら辺を勘案しながら本部の立ち上げを決断したところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

それから、かんがい用品の補助の利用状況でありますけれども、ポンプの購入、あるいは燃料費の補助、今回なかったわけなんですけれども、それを望む声がよく聞かれました。その1つには、隣の上越市でもポンプの購入補助が盛り込まれたと。私もそういったことについて要望を受けて、市に持ち帰ったんですけれども、ポンプがいろいろと価格に幅があって高価だ。それから、平成6年よりも借り入れの補助率を高くしている。また、JAひすいには、借りられるポンプが多くあ

る。そういう説明をいただきました。

実際、本部のほうには、このような要望と補助の申し込み、それから、実際にポンプの借り入れなどの状況、そういったものはいかがだったのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

今回の渇水に対する支援に当たりましては、県の支援策が示されるのを待ってる余裕がないという判断をさせていただいて、平成6年を参考に市独自で支援策をお示ししたものであります。高額なポンプについては、渇水による一時的なものであること、また、そんなことからリースに限定させていただいたものであります。また、給水に係る燃料費についても個人的経費として補助対象から除外させていただきました。実際、ポンプの購入についてという要望も、実は、私も実際に耳にしておりましたけども、今回は除外をさせていただいたものであります。

なお、かんがい用資機材の借り上げ、資機材購入に対する補助申請については、現在26件、115万円程度があります。うちポンプの借り上げについては5件、45万円程度という状況になっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

そのほかに利用者からいろいろな意見や要望というものは、寄せられたのでしょうか。

それと私には、園芸作物への支援は今回どうだったのでしょうか、なかったというふうに聞いているんですけども。水稻が、最初の答弁では被害を受けているということで、園芸への触れがなかったんですが、園芸の支援は、補助はなかったのか。また、その理由は何か。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

この渇水に当たっては、いろんな要望が出ておりました。また、今回、消雪パイプの井戸による給水というのを、これまあ要綱上は水稻ということで限定をしておりましたけども、現実的には、恐らく園芸生産者の方もその水を利用されたんでないかなというふうに考えております。そこら辺あたりは柔軟に対応させていただいたつもりであります。

それから、園芸についても降雨障害によって収量の減少だとか、規格外の発生というのがあったということは、実際に耳にしております。具体的な数量とかは、ちょっと把握をしております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

できるものなら園芸農家からちゃんと支援しているというふうにやってもらいたい。やはり真面目な人は守って大変だったという話も聞いていますので、そういったことをまた今後参考にして、今後あってはならないとは思いますが、対応よろしくお願ひしたいと思ひます。

今、被害状況を若干触れたんですけれども、被害状況と生育状況について。

きのうの報道では、新潟県全体の農作物の被害は、水稲で740ヘクタール、園芸大豆が720ヘクタール、市内では、稲が枯れた田と園芸作物の被害面積はどれぐらいかというふうは何うつもりなんですけれども、今のような話だと園芸の被害はわからないということなんでしょうか。もしわかったらお願ひしたいと思ひます。稲のほうの市内の影響を受けた田と園芸作物。それから、もしもある程度の地域的なことがわかったら、それも合わせてお願ひしたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

園芸については、先ほどお話をさせていただきましたように詳しい実態というのは、まだつかみ切れておりません。

ただ、水稲につきましては、8月5日現在でありますけれども、NOSA Iから情報をいただいております。水田のひび割れで約20ヘクタール、生育停滞では8ヘクタール、また、枯れてしまったというのが2ヘクタールというような情報を持っております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

それからもう一つ心配なのは、生育状況についての把握でありますけれども、いろいろ聞いてみますと渇水によって肥料がきかない。そういったために丈が短くなって、穂が実らずに生育不良になってる。実際、私もよく目にしてきました。また、除草剤がやはりきかないということもあって、雑草が非常に多い。草取りが追いつかない。そういう状況を見たり、聞いたりしております。

もう一点は、お盆過ぎに雨が降ったと。それから一見回復したように見えるんですけども、全然、頭が垂れてこないから実が入っていないんじゃないか。やっぱり刈り取るまではわからないと心配している声を聞くんですけども、市のほうでは、この辺の生育状況をどのように把握し、見通しているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

渇水などで稲の水分が不足しますと、ご存じだと思いますけども枯れてしまったり、生育停滞につながって、仮に途中、雨が降ったとしても一旦葉っぱが針のように丸々ってしまうような状態に

なると、完全に生育というのは復活できないものというふうに言われております。生育停滞になりますと出穂できない。また仮に出穂しても開花して結実しない。また、結実しても登熟できないというようなことから、収量でありますとか品質への影響というのは、あらわれてくるというふうを受けとめております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

生育とともにもう一点は、品質についての把握なんですけれども、高温ということで、稲刈りが早まるんじゃないかというふうに言われて、実際、わせやモチ米の収穫は始まっていますし、報道など見ると、それらの1等米比率は、この猛暑でかなり落ちているというふうにあります。品質についてもやはりその高温の影響を受けて、かなり下がるんじゃないかというふうにあるわけなんです。当市は、昨年もおととしもやはり他の地域よりも品質が余り、1等米比率が低かったように記憶しているわけなんですけれども、ことしはこういった気候の影響の中でどのように見通しているか。状況等いかがなもんなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

渇水による米の品質につきましては、登熟不足だとか胴割れなど、こういうものの発生というのは懸念されます。作柄への影響については、9月1日に農業新聞の記事で北陸農政局の8月15日時点における県内作柄状況、これについては平年並みで推移と。穂数は平年に比べやや少ないと。渇水による枯れてしまう被害はあったものの、実りのぐあいについてはやや良という見込みと発表がありました。

ただ、当市においてはかなり、特に中山間地域を中心に渇水の被害というのが出ておりますので、これがそのままいくかというところではないというふうに理解しております。現在ところ補償の相談については、具体的に市のほうには寄せられておりませんが、農業共済補償、これについてはNOSA Iと連携を密にしながらか対応していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

私もいろんな方から聞いたりして、特に高倉の人は4町作付しているけども、100体以上は、確実に減収だと。場所によって同じ市内でも作柄あるいは品質にかなり影響が出るのかなと。調査あるいは相談を十分に行っていただきたいと思います。

今、共済の話が出ましたけれども、共済については、皆さん入っておられる方が多いです。なんだけども、実際にじゃあ手続をしているかというところ、なかなかしていない方が多いふうに関心しました。なぜかというところ、一言で言うと諦めてる、あるいは面倒くさいというところがあるわけで

すよね。間もなく、もう始まっているのかもしれませんがけれども、そのための坪刈りがあって、それでいろいろと決まるんですけれども、一筆で2割以上の減収でないと対象にならないとか、それからそういったこともあって実際の減収と一致しない、だからやっても嫌だと。その手続のほうは面倒だし、一筆ごとにまた申請の枚数を書かなきゃいけない。そういった話をよく聞きます。その辺のところでは余り利用したがないところが入っていてもあるわけなんですけど、市のほうではその辺の、共済の話なんですけども、状況は把握してますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

今、田中議員からお話がありましたように一筆ごとに加入をして、一筆ごとに申請をしなければいけないというようなことで手間だという話は、今回の渇水とは別にお伺いしております。市とすれば、NOSA Iからはこういうときにこそ、そういう申請を受け付けて、そして救済に当たってほしいということは市のほうとしてもお願いもしておりますし、また、生産者の方については、確かに面倒だし、じゃあ幾らもらえるんだという、そういうこともあって、なかなか申請については足踏みする方もおられるんですが、せっかく入った共済ですので、こういうときにこそ、ご利用いただきたいということで、一緒になって働きかけをしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

そういう声をよく聞きますし、またその辺をよろしくお願ひしたいと思ひますし、地域によって面倒を見てくれる人がいると結構その辺が進んでるところと進んでないところとあたりもしますね。私まだ確認してないんですけども、こういう声を聞きました。

共済を使うと次から掛金が高くなると聞いてるとか、あるいはそれを使うと3年間は使えなくなるので、今回はこの程度見ながら我慢しよかなと思つてるとか、これは本当のことなのかどうか、私も確認してないんですけども、もしご存じだったらお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

実際の減収と一致しないというお話については、もともと共済の給付金収量というのは、その基準収量の7割でありまして、減収10割の補償とは制度的にならないということでもあります。

それから、共済使うと3年間使えなくなるんじゃないかというお話があったかと思いますが、ことし共済をもらったとしても来年もらえなくなることはないということであると認識しております。

ただ、無事戻し金がなくなる可能性はあると。無事戻し金というのがあるんだそうですけども、そういうものが戻ってこなくなる可能性があるということでもあります。そういう理解でおります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

何でこんなことをというのは、結局こういう制度入っていても、まだ理解できていない方も結構おられて、いろんな話の中で左右されているということであって、新たに今度、収入保険制度が始まるわけですけれども、新たな制度は、なおさら皆さん、まだ理解できないんじゃないかなど。そういった懸念から今1つの例として、先にこれを聞かせてもらいました。

それで、収入保険制度は10月から、たしか申請が始まるというふうに私は聞いているんですけども、実際、制度が運用されていくのは、来年の1月からでしたっけね。ことしのような干ばつは、これは対象にはならないのでしょうか、ちょっとその辺の確認をさせていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

収入保険制度については、実際は来年の1月からということになります。今回のような湯水の被害についても、この収入保険制度の対象になるという理解でおります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

いろんなまた相談等もされるかもしれませんが、本部は一旦解散はなっていますけどもね。そういったことをまた丁寧にやったら指導していただきたいと思います。

湯水による田畑のひび割れとため池について、入っていきますけれども、田畑のひび割れは、先ほど糸魚川は20ヘクタールというふうに伺いました。かなり面積になるかなと思うんですけども、来年の作付に、やはりこれは影響があるのかどうかというのは、やはり大きなことじゃないかと思うんですが、この20ヘクタールというのは、来年の作付に影響する面積なのかどうか、いかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

田面のひび割れが20ヘクタールということで、これについては被害の多い、大きい、小さいというのは、実際はあります。全てこの20ヘクタールが、じゃあ影響出るといって、そうでもないんですが、我々把握したのが20ヘクタールで、ともすれば、もっと大きい面積に膨らむ可能性というのは十分あります。これについては、来年の作付にも影響出る水田があるものですから、何とかそのひび割れ対策については、県の支援も受けながら対応していきたいというふうに考えてお

ります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

そうですね。これから刈り入れが進んでいくわけですが、刈り入れして、田面が本当にあらわれると、またさらに被害が拡大して、あらわれてくるおそれがあります。今後の調査というものを引き続きやって、またそれに応じた対応というものを考えていってもらいたいと思いますけれども。今回の渇水で、お盆には集中豪雨があった。ひび割れところの田、あるいはあぜ等が大きく崩壊している箇所が発生したというふうに聞いております。私が聞いているので高倉地区では、その16日ごろに降った雨で、あぜや田が崩れたところが5カ所発生したというふうに聞いております。こういう地域の把握というのは、されておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

現時点では、今ほど議員がお話しされた5カ所を含めて13件、今のところ確認しております。

ただこの後、また雨の程度によっては、さらに発生することも想定されますので、そういう被害があった場合には、市のほうへ連絡いただけるよう周知を図ってまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

今、渇水でのひび割れは、話をしているわけですが、昨年の台風21号、それで崩壊したりとか、復旧途中の農地用水、そういったものが今回の渇水によって、さらに被害が大きくなったという話が聞こえなくもないんですけれども、そういう昨年からの災害復旧事業の対象になってない小規模な農地の被害というもの、それが今回の渇水で、またさらに被害が大きくなったという、そういった状況というものはあるものかどうか、届いてるかどうか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

昨年の台風21号と、この渇水による田面のひび割れという、それが直接リンクをしたとか、また、被害が拡大したとかというのは、具体的には聞いておりません。

ただ、田面のひび割れにしろ、豪雨による災害にしろ、国庫災に該当しない小規模な被災農地については、報告があった箇所については、市単独で災害復旧を行っておりまして、翌年の作付、またはその年の作付に可能な限り間に合うように対応させていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

それから、ため池であります。

今回のことで、市内各地回ってみたら、非常に多くのため池があることを改めて知りました。渇水によってため池がダメージに心配されるということで、底面に水が少し残っていても全部出しきっちゃいけないとか、あるいはそれをするまでのうちにも全部渇水になってしまったと、干上がってしまったということで、随分、ため池のダメージを心配する声が聞こえてくるわけなんですけども、その辺のため池のダメージについての把握というのは、されていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

今回の渇水によるため池のダメージというのは、ある可能性があるんですけども、実際、現場のほうからは直接は今のところ聞いておりません。もし仮にそういうダメージがあった。例えば漏水するようになった。一部が崩れてしまったというような場合には、補助制度によりまして、補修をすることができますので、またそういう情報についても現場のほうへおつなぎしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

それとせっきくのため池が100%機能するためには、定期的なメンテナンスが今後必要かなと。泥があって使えないところだとか、そういった堆積した土砂の底上げだとか、掃除初め、いろんなものが、利用者だけではなかなか難しいところがあるんじゃないかなというんですけども、その辺に対しての補助的なものがあるものなのかどうか。支援があるものかどうか、いかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

ため池の、例えばため池に泥がたくさん堆積して、それをしゅんせつしたいという、そういう事例については、実は用水路の側溝掃除と一緒にという理解で、ため池のそういうしゅんせつについてはありません。じゃあ実際どういうふうにするかということになると、例えば日本型直接支払い制度の交付金を活用したりということになります。ため池が傷んでしまって工事が必要になるというような場合については、そういう補修の関係で地元10%の負担、市のほうで、市もしくは災害等の国・県の災害をとって9割程度の支援というのがございます。そこら辺をご利用いただきたいと

いうふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

それから、ちょっと角度があれなんですけれども、藤崎地区を例にさせていただきますけれども、藤崎地区には大きなため池がたくさんありました。平成6年の干ばつでは、それで不足したんですけども、今回は足りたと。理由は、耕作者が減って、水を必要とする人や農地が減った。だから、足りたということらしいです。また、そこが減ったことで新たな課題が、耕作放棄地がふえて、必要なくなったため池が今度は発生してきてると。その管理をどうするか。所有者あるいは利用者は、もうこの地域には住んでいないところが出てくると。これはどこでもこれから発生していくんじゃないかなと。今回のようなことがあったり、あるいは自然災害の中で堤防損傷とか崩壊が懸念されると、下部にある公共施設あるいは住宅、そういったものに影響があるんじゃないかということで、藤崎地区なら藤崎地区においてもまた、その辺の安心・安全について心配する声が聞かれました。そういったことに対して、市のほうでは何か把握され、またそういうことを受けての場合の支援というのはあるものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

ため池については、市内に69カ所、これは市で確認しておるもので69ということであります。また、それ以外にも個人の方でため池を設置しておったりする例というのは、実際にはあるんだろうというふうに考えております。

そのため池が利用しなくなったということで放置されるような状況というのは、市のほうでは今のところ、そういうため池があるかどうかの確認をしておりません。また、何かの機会を捉えて、そういう放置されるため池、また利用しなくなったため池というのはきちっと把握して、どういう対応をとるかも含めて検討が必要だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

69カ所以上あると思います、ため池、市内には。それから、今回、西日本豪雨で広島県のため池が決壊して、痛ましい出来事がありました。そういったことが受けて、7月に県はため池の緊急点検を市町村に要請し、行ったということ聞いておりますけれども、市内ではそういった点検をされたのかどうか。また、もしされたなら、その結果はどんな対応をされたのか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

ため池の管理というのは、用水組合だとか地区、それから圃場整備組合、個人などによって今、管理をされておるとこでありますけども、今ほどあった7月の西日本豪雨を受けまして、また、台風シーズンも控えておったもんですから、市では自主的に緊急点検を実施して、県の要請があった時点では、既に点検を終えておりました。防災重点ため池というのが市内7カ所にあります、その点検結果については異常は認められませんでした。地震などによって、そういうため池の影響というのが考えられますことから、点検基準を設けまして、その都度点検を行っております。また、ハザードマップを整備の上、関係地区に配付して、その周知に努めておるところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

防災重点ため池が市内に7カ所、そういったところもそうですし、また今後、先ほど言ったようなおそれもまたあるかもしれません。そういうことで十分な調査と対応をお願いします。こういうようなことがありますと、こういった影響が大きいところというのは、水利や耕作の比較的条件の悪い地域が多いと。これは先ほど課長も言われたとおりであります。日ごろから苦勞をして、手間をかけている。とれるお米が、こういうところのおいしいんですけれども、今回のようなことがあると生産意欲は減退して、こういったことを機に耕作放棄地が加速するおそれがあるということでありますので、十分な対応を今回これを機に、またお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

次に、国民文化祭についてお伺ひいたします。

国内最大の文化行事であります国民文化祭、市としては、この文化行事を県内で初めて開催する。このことをまずどのように受けとめておられるかどうか、まずこの点から伺ひたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

新潟県で最初に開かれる国民文化祭ということでございまして、このことによりまして、地域の文化活動の活発化、あるいはレベル向上、また、東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラムに向けた機運の醸成という、ちょうどそのようなタイミングでもありますので、DESTINATIONキャンペーン等の相乗効果による地域の活性化、イコール人口の拡大ということも県では掲げておまして、当市としてもチャンスと捉えておりますので、しっかり取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

その答弁を聞いて安心をしたんですけれども、ただ、1年前、現在イベント開催中の時期で、機運醸成を図る周知期間でもあるというふうに国民文化祭のほうでは設定しております。けれども市内の、このことについて知ってる人って、私の周り何人か聞いてもほとんど知らない。周知はどのように認識されていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

去る8月末に文化庁の国民文化祭実行委員会で、新潟県の実施計画案が承認されたばかりでありまして、今後、準備や広報などの取り組みが、さらに進められるものというふうに捉えております。

当市におきましては、この秋に開催いたしますふるさと短歌大会、あるいは歴史民俗資料館の企画展、これをイベントとして位置づけておりまして、今後も関連する事業をイベントとして開催していきたいと考えております。

PRにつきましては、先般の第3回目の実行委員会、県の実行委員会総会で、会長であります花角新潟県知事も挨拶の中で国民文化祭の認知度は、いまひとつであるという話がありましたし、県内外にもっと広げるためにアイドルグループなどにも協力を依頼し、盛り上げていきたいというお話もありました。今後、県の実行委員会が中心となりまして、さまざまなメディアを使ってPRを進めていくことになると思いますけれども、市としてもその動きに合わせまして、広報紙の活用やホームページの充実、SNSを活用した発信など1年後の文化祭に向けて、周知を積極的に図るとともに機運を高めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

県のほうでもまだ認知度が低いということを感じていると。糸魚川はもっとそうなんじゃないかなど。キャッチフレーズ一つとっても、「文化ふつつ新潟！」で何だと言われます。これ下越のほうの方言らしいんですけれども、どうも下越あるいは新潟、そちら上越を含めてそちらのほうを中心に進んでるような印象が受けて、上越のほうが少ない、そのように受けとめられてるところがあります。また、その上越の中においても、上越・妙高エリアというふうに分野別の中ではあって、糸魚川の名前がない。全部県内の30市町村、全部名前が乗っかってるわけじゃないんだけど、やはりそういったところは市内において認知がまだされて、あるいは浸透していかない原因であるんじゃないかと、その辺についてどう思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

中・下越中心になってしまうのではないかとこの議員のご心配だと思っております。キャッチフレーズも「ふつつ」という我々糸魚川市民、あるいは上越地域でもほとんどなじみのない言葉が

使われることとなりましたが、ごらんの広い新潟県内ですので、ある程度、ある意味いたし方ない部分もあろうと思っておりますし、設立総会で、この「文化ふつつ新潟！」というのが提案されて、そこで異議なく承認されたというところからもというところではあります。

しかしながら、特に糸魚川エリアが少し蚊帳の外になるのではないかというご心配でございますけれども、上越エリアでしっかり協力・連携をして、県内の均衡がとれるよう県の実行委員会とともに取り組んでいきたいというふうに考えておりますし、取り残されるといいますか阻害されたということではなく、しっかり糸魚川をPRしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

よろしくお願ひしたいんですけれども、それでは、分野別フェスティバルの一個一個に伺いますけれども。

まず、7つのエリアが設定されて、コア事業が行われると。コア事業という、そもそもこのコア事業というのは、どんなもので、どんな目的があるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

コア事業の内容につきましては、地域の文化特性や観光連携を踏まえて、県内を7つのエリアに分け、エリアごとに特色ある事業を実施するという内容でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

上越・妙高のこのエリアにおいては先ほどの、私も前から聞いてはいたんですけれども、日本酒と魚しょうを発酵というふうに位置づけて、展開していくというふうに受けとめたんですけれども、糸魚川として発酵といたら、関係するものはこの2つが代表的なのか、それとも、まだ今はこれだけだけれども、ほかにいろんなものを発酵、関連づけて展開していく要素があるのかどうか、いかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

日本酒や魚しょうということでもありますけれども、そのほかには、次の日本海ガストロノミーという考え方の観光デスティネーションキャンペーンの冊子にもありますとおり、笹寿司というのも発酵というところに位置づけをされているところでもありますので、糸魚川市内でも当然、笹寿司にはたくさんの方から市内でもゆかりのある食品でありますので、そういった面がございます。

また人物では、江田鎌治郎という方が明治の時代に活躍された方がおられます。これは日本醸造、現在の独立行政法人酒類総合研究所、当時は、醸造試験所と言っておりましたが、そこで、この江田さんが、速醸酏という日本酒の製造工程において、これまでのものより半分ぐらいの工程で酒を醸造することができる。そういうものをまず、かかわられた糸魚川市出身の方がおられるということで、私も今回のこのコア事業につきましていろいろ調べたといいますか、他方面からいろんな情報がありまして、初めて知ったというわけですが、こういう方もいらっしゃいますので、そういう方もスポットを当てて、スポットを当てる好機として捉えまして、関係団体等にもお願いし、上越3市で積極的に連携をしてコア事業に取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

そうですね。非常に今回がチャンス、好機と捉えて、いろんな文化資源、今これは発酵文化の資源に掘り起こしが大事じゃないかなと。こういった機会の本当にどんどんそういうのを掘り起こして、光を当てて発信してもらいたいなど。先ほど笹寿司が加わって、私はもう一個、バタバタ茶もいいんじゃないかなと。今の状態でネットなんかバタバタ茶見るとみんな富山県の朝日のほうが上位に並んでるんですけども、東西の文化の融合の中においてという観点からもこういったものもいいんじゃないかなと。いろんな考え方や視点があろうかと思えますけれども、ぜひ市内にあるいろんな貴重な文化資源を掘り起こしていただきたいなと思えます。

文化団体関連事業、これは先ほど答弁ではなかったなと思うんですけども、上越が会場かどうか県内では8つの市が会場になってるというふうに聞いております。上越の会場が一番近いところなんですけれども、ここでは太鼓と合唱の祭典があるというふうに聞いているんですけども、これは現時点においてはどのように進んで、進捗状況どうなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

議員のお話のとおり、県内では8市が文化団体連携事業に取り組むということで、上越市では太鼓等、合唱の祭典をやるということになっておりますが、現在のところどのような形で動いているかということに関しましては、まだ情報がありませんで、この場では詳細ではお話しすることができない状態であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

文化団体連携事業は、全国公募で募集して、レベルの高い団体の講演が当市に来て披露するように一部では聞いております。私が一番聞きたいのは、そういった祭典の中において、糸魚川市内にも太鼓の団体とか合唱の団体とかサークル、あるいはこれが好きな人やなんかはたくさんおられる、

そういった人たちにも門戸を開いて、参加がやっつけられるのかどうか。また、市内においても上越を飛び出して、糸魚川市内においてもこういうものが開催されることが可能なのかどうか、そういったことを聞きたいんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

上越で太鼓の祭典が開催されるということでございますけれども、これは議員おっしゃるとおり全国規模の団体による発表や講演という内容です。県内外から参加が見込まれる事業という、文化団体連携事業といいます県内外から参加が見込まれる事業という位置づけでありますので、よって、参加募集があるものというふうには考えてはいるんですけれども、主催である上越市、あるいは全国規模の団体という考え方にもよろうかなと思っております。現在のところ募集するとか参加できるか否かということに関しても情報が無いという状態です。仮に、公募がありまして、参加者数が非常に多くなった場合の対応ですとかそういったものがどのように取り込まれるか、実際の講演に向けてどう進められるのかということに関しては、現時点では不明ということでございます。

また、市内においてもそういうことが可能かということですが、文化団体連携事業という位置づけでは、上越市に決定しておりますので、糸魚川市でその冠をつけて実施することはできないわけですが、市内でも非常に太鼓の団体の活動が盛んでありますので、何といいますか、名義後援といいますか、そういうような形で国民文化祭事業としてのPRにそういう事業を使う。使うといいますか活用することができないかというのは、今後相談してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

今回の目玉というか目指すものが、文化の裾野の拡大だとか、あるいは技術の向上、またそれに伴って交流人口の拡大。私はこの文化団体連携事業が一番、個人的になんですけれどもそういったことに関係してくるんじゃないかなと。全国レベルの非常に魅力のあるものが、そこでやると、そこにやはり人も集まってきたりだとか、あるいはそれに携わることによって裾野が広がり、技術が向上していくんじゃないかなと。そういったことにおいて、やはり市のほうでもその辺のかかわりやら、積極的にもしできる場所があれば、今の答弁ですとまだなかなか詳細が決まっていないということなんです、もう1年前でありますし、ぜひこの文化団体連携事業、力を入れていただきたいと思いますが、もう一度お願いできますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

議員おっしゃるとおり文化団体連携事業の全国規模の団体、あるいはそういう講演ということになりますので、波及効果はあるものと思っておりますけれども、当市の文化団体連携事業として併

句大会を私どもも提案をし、また県とも調整をしてまいりましたが、俳句を例にとりますと、日本伝統俳句協会ですとか、現代俳句協会、俳人協会という、いわゆる中央にある大きな組織と連携をとる必要がございます、結果的に本市が事業のイニシアチブをとれなくなる可能性があるのではないかということから、県の指導もございまして、市町村独自事業に切りかえをして進めてきたという経過がございます。市町村独自事業で俳句大会を開催する予定なんですけれども、そちらもさらに拡充をして、例年よりも大きな大会にして、そのような波及、交流人口の拡大等の波及効果をさらに図ればというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

ちょっとこれより突っ込むのはあれなんですけど、今、市町村独自事業で俳句、これはこれでいいかと思うんですね。ぜひ頑張ってやっていただきたいと思っておりますけれども。市町村独自事業というからには、先ほど言いました市内にある文化資源、ヒスイの文化、あるいは縄文文化、奴奈川姫、それから国重要の無形民俗文化財が市内では4つもあります。

また、施設としては、相馬御風の建物があ、相馬御風そのもの、それから谷村美術館、翡翠園、玉翠園、こういったものを活用しての市町村の独自事業というものの展開というものをぜひ考えてもらいたんですけれども、そういう考えはできないんでしょうか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

募集のテーマをヒスイですとか奴奈川姫というものを、今そのほかにも議員おっしゃったような市内の文化資源がたくさんございますので、そういったものをテーマとするような設定をすることは可能ではないかと思っておりますので、そういった意味でのPRをしていければと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

PRというよりもそういう事業をやっていくことが可能かどうか。あるいはやってもらいたいなと。非常にいい施設があることだけど、まだ知らない、先ほど言った中で谷村美術館、翡翠園、玉翠園と言ったけど、フォッサマグナミュージアムもそうですしね。非常にいいものがあると思います。そういったことを利用してやっていただきたいと思っております、こういったことを機に。

それで、最近の国民文化祭の公式ホームページ見ましたら、PRサポーターインタビュー・コラム欄、これに高倉の越の丸茄子が掲載されておりました。これはご存じでしょうかね。越の丸茄子の栽培への経緯から栽培方法、料理方法まで詳しく載っていて、非常にわかりやすく紹介されているんですけれども、PRサポーター自体も知らないという人が多いと思っております。市内にたくさんのサ

ポーターはいるのかどうか。また、このような今話した文化資源をこういった人たちに話をする中で、発信に努めてもらいたいと思うんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

大分大会でそのような内容が掲載されているということに関しましては、私も承知をしておりますので、PRサポーターという件についても今、議員から初めて聞かせていただいたようなことですので、そういう動きが非常に有用であると思いますので、今後そのようなサポーターという方の募集ですとか、募集した後の活動についても実行委員会を今後設立して、進めていくことになると思いますので、そのような中で位置づけをして進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

障害者芸術・文化祭ですけれども、まず、日常において障害をお持ちの方もこういう文化や芸術に触れる機会というものがあるわけなんですけれども。市内の障害をお持ちの方で文化芸術に触れている人たちの現状はどうか、市のほうではどのように把握してますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

嶋田次長。〔福祉事務所次長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所次長（嶋田 猛君）

おはようございます。

お答えいたします。

市内の障害者で文化芸術分野において制作など活躍している方はいらっしゃいますが、具体的な人数などは把握はしておりません。

しかしながら、障害者の施設や作業所に通う方の中には、いわゆる作業訓練といたしまして絵画など創作活動に取り組む方もおられまして、施設のイベント時に作品展示などを行い、訪れる方が障害者の芸術に触れ、理解できる場ともなっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

例えば隣の上越では、発表する場としてアール・ブリュット展などもやっておるわけなんですけれども、糸魚川市でもそのようにふれたり、あるいは発表する機会でもやっていただきたいと思えます。

観光への取り組みなんですけれども、インバウンドの拡充、交流人口の拡大で、すごく力を入れているというふうに知事も言われたということなんです、そのことについて特にインバウンドについて情報発信、あるいはそれに伴っての受け入れ体制、そういったことについて、市はどのような対応をこれから考えていくのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

今回のこの国民文化祭と新潟県・庄内エリアデスティネーションキャンペーンは同じ時期で、またコア事業につきましても同じエリアで設定されております。このことから双方が連携を図りながら情報発信を行っていくということが大事であると考えておりますし、インバウンド等を含めた誘客につきましても、このデスティネーションキャンペーンの中で取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

時間が余りないのでできるだけ具体的に、じゃあ今度こういうふうに情報発信に努めていく、あるいは受け入れ体制については、どのように考えていく、で1年後には、どのようにやるというふうに、もう1年後なので、デスティネーションキャンペーンが目の前に来てからでは対応が遅いと思いますので、できるだけ具体的なインバウンドの取り組み、あるいは交流人口の拡大というものをやっていただきたいと思いますけれども、本当にデスティネーションキャンペーン「日本海美食旅(ガストロノミー)」先ほど課長も言われたとおりなんですけれども、非常に発酵文化と合わせて、糸魚川のお酒だとか、あるいはカニやエビとかいろんな食材を売っていくチャンスであります。ぜひその辺をやっていただきたいなと思います。

来年の秋にこのような催しというのは、糸魚川市にとって単に文化を披露する、あるいはかかわるというばかりじゃなくって、糸魚川駅北大火からの復興、にぎわいづくりにも非常にチャンスなんじゃないかと思うところであります。国民文化祭のロゴマークは新潟県のシルエットだといいます。でもあれ北前船、あるいは日本海の夕日もあらわしているというわけなんですけれども、今のままでは新潟開港150年の大きなイベントを予定している新潟下越に集中して、埋没する懸念があるのではないかと心配するところであります。市内にあるすぐれた、先ほど言いました文化資源・施設、そういうものを活用して、今から積極的に取り組んでいただきますことを期待して、私の一般質問を終わります。

以上です。ありがとうございました。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で、田中議員の質問が終わりました。

関連質問なしと認めます。

暫時休憩します。